

2024年、日本のスポーツ界は記念すべき成果を挙げました。パリ五輪では日本選手団が史上最多のメダルを獲得し、さまざまな競技での快挙が国民を沸かせました。また、大リーグでは大谷翔平選手が「50本塁打・50盗塁」という史上初の偉業を成し遂げ、競技パフォーマンスの新たな基準を打ち立てました。これらのニュースは、アスリートの身体能力と医学の進化がいかに密接にかかわっているかを示しています。とりわけ、股関節にかかる負担とそのケアは、トップアスリートだけでなく、一般のスポーツ愛好家にも重要なテーマです。

股関節疾患、とりわけ寛骨臼形成不全は若年から中年期にかけての患者に多くみられる疾患であり、進行すると変形性股関節症に至る可能性があります。この疾患はスポーツ選手にも例外ではなく、競技を続けるなかで早期の機能低下をきたすこともあります。こうした患者に対し、股関節温存手術である「寛骨臼側股関節周囲骨切り術」は、関節を置換せずに機能改善を図る選択肢として注目されています。この手術は、寛骨臼の大腿骨頭への被覆を改善し、関節の負担を軽減することで、患者がスポーツや日常生活をより長く快適に送ることを可能にします。

パリ五輪や大谷選手の成功を支えたのは、リハビリテーションを含む綿密な医学的管理です。寛骨臼側の骨切り術も術後の適切なリハビリテーションが術後成績を左右します。股関節機能を維持・改善するためには、周囲の筋力強化や可動域の回復だけでなく、患者一人ひとりの目標に応じたスポーツ復帰プログラムの提供が重要です。例えば、アスリートにおいては競技レベルに応じた段階的な復帰が求められ、スポーツ医学と連携した治療が欠かせません。

寛骨臼側の骨切り術は若年患者の将来的な関節置換術のリスクを減少させる可能性があります。スポーツ医学の観点からも、若年期における股関節機能の維持は、患者が競技者としてだけでなく、生涯にわたるスポーツやアクティビティを楽しむための基盤を作ります。大谷選手のようなアスリートの長期的な競技生活を支える医療技術と同様に、寛骨臼側の骨切り術も患者の人生を豊かにする術式といえるでしょう。

2024年のスポーツ界の輝かしい成果は、医学とスポーツが協働することにより人々の可能性を広げられることを示しました。われわれ関節外科医が寛骨臼側の骨切り術を通じて提供できる未来もまた、スポーツ医学の視点を取り入れることでより豊かになると信じています。

(高平尚伸)

令和7年2月19日発行

関節外科－基礎と臨床－ Journal of Joint Surgery Vol.44 No.2

発行：年14回（年12回発行＋増刊号2回）

編集顧問 高倉義典／進藤裕幸／筒井廣明／吉矢晋一

編集主幹 帖佐悦男

編集委員 田中康仁／岩堀裕介／内尾祐司／尾崎敏文／高平尚伸／岡崎 賢／國吉一樹／大鳥精司

発行人 吉田富生

発行 (株)メジカルビュー社

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30

TEL 03-5228-2050／FAX 03-5228-2059

ホームページ <https://www.medicalview.co.jp>

email eigyo@medicalview.co.jp（営業部）

jjs@medicalview.co.jp（『関節外科』編集部）

印刷所 三報社印刷（株）／〒136-0071 東京都江東区電戸7-2-12

・本誌に掲載された著作物の複製権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、上映権、データベースへの取り込みおよび公衆送信権（送信可能化権を含む）、譲渡権等は（株）メジカルビュー社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, email info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

・本誌をコピー、スキャン、デジタルデータ化するなどの複製を無許諾で行う行為は、著作権法上での限られた例外（「私的使用のための複製」など）を除き禁じられています。大学、病院、企業などにおいて、研究活動、診察を含み業務上使用する目的で上記の行為を行うことは私的使用には該当せず違法です。また私的使用のためであっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

広告申込先：（株）文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 宮田ビル5階 TEL 03-3814-8541